

教授用資料

大修館書店

令和7年度
中学校保健体育科用

最新中学校保健体育

第2学年

評価規準作成資料

2024年9月

【単元名】体育理論② 運動やスポーツの効果・学び方・安全（配当 3 時間）

【学習指導要領との関連】体育分野（2）ア（ア），（イ），（ウ），イ，ウ

【教科書のページ】p.62～77

1 単元の目標

- (1) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、理解することができるようにする。
- (2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。
- (3) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むことができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①運動やスポーツが心身及び社会性に及ぼす効果</p> <ul style="list-style-type: none">・運動やスポーツは、心身両面への効果が期待できることについて、言ったり書き出したりしている。・発達の段階を踏まえて、適切に運動やスポーツを行うことは、身体の発達やその機能、体力や運動の技能を維持、向上させるという効果があることや食生活の改善と関連させることで肥満予防の効果が期待できることなどについて、言ったり書き出したりしている。・発達の段階を踏まえて、適切に運動やスポーツを行うことで達成感を得たり、自己の能力に対する自信をもったりすることができること、ストレスを解消したりリラックスしたりすることができること、などの効果が期待できることについて、言ったり書き出したりしている。・体力や技能の程度、年齢や性別、障害の有無等の様々な違いを超えて、運動やスポーツを行う際に、ルールやマナーに関して合意形成することや適切な人間関係を築くことなどの社会性が求められることから、例えば、違いに配慮したルールを受け入れたり、仲間と教え合ったり、相手のよいプレイに称賛を送ったりすることなどを通して社会性が高まることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>②運動やスポーツの学び方</p>	<ul style="list-style-type: none">・運動やスポーツが心身及び社会性に及ぼす効果、運動やスポーツの学び方、安全な運動やスポーツの行い方について、習得した知識を活用して、運動やスポーツとの多様な関わり方や楽しみ方についての自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し判断するとともに、自己の意見を言語や記述を通して他者に伝えている。 <p>※全 3 時間の中で、該当時間のねらい等に対応させ、適切な時間に評価機会を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方を理解することや、意見交換や学習ノートの記述などの、思考し判断するとともにそれらを表現する活動及び学習を振り返る活動などに積極的に取り組もうとしている。 <p>※全 3 時間の中で、該当時間のねらい等に対応させ、適切な時間に評価機会を設定する。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの課題を解決するための合理的な体の動かし方などを技術といい、技能とは、合理的な練習によって身に付けた状態であること、技能は個人の体力と関連していることについて、言ったり書き出したりしている。 ・各種の運動の技能を効果的に獲得するためには、その領域や種目に応じて、よい動き方を見付けること、合理的な練習の目標や計画を立てること、実行した技術や戦術、表現がうまくできたかを確認すること、新たな課題を設定することなどの運動の課題を合理的に解決する学び方があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・特に競技などの対戦相手との競争において、技能の程度に応じた戦術や作戦を立てることが有効であることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>③安全な運動やスポーツの行い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に運動やスポーツを行うためには、特性や目的に適した運動やスポーツを選択し、発達の段階に応じた強度、時間、頻度に配慮した計画を立案すること、体調、施設や用具の安全を事前に確認すること、準備運動や整理運動を適切に実施すること、運動やスポーツの実施中や実施後には、適切な休憩や水分補給を行うこと、共に活動する仲間の安全にも配慮することなどが重要であることについて、言ったり書き出したりしている。 		
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

3 指導と評価の計画（3 時間）

知識・技能＝知，思考・判断・表現＝思，主体的に学習に取り組む態度＝態

時間	主な学習活動	知	思	態	評価方法
第1時 運動やスポーツの体と心への効果	1 これまでに運動やスポーツをして、よかったことやうれしかったことについて意見を出しあってみる。 2 本文と資料から、運動やスポーツは体の発達をうながし、健康を増進することを理解する。 3 本文と資料から、運動やスポーツは達成感や自信をもたらし、ストレスを軽減することを整理する。 4 本文と資料から、運動やスポーツは社会性を高めることを確認する。 5 学習したことをもとに、新体力テストの結果を見直し、自分の体力を高めるための計画を立てる。	①			(学習活動2～4) 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。 (学習活動4) 習得した知識を自分のこれまでの生活に当てはめて考え、新たな提案を言ったり書いたりしている内容をワークシートなどで捉える。
第2時 運動やスポーツの学び方	1 球技のゲーム中によく使われる用語をグループで出しあってみる。 2 本文と資料から、スポーツには、種目特有の技術や戦術があることを理解する。 3 本文と資料から、技術や戦術を身につける効果的な学び方があることについて整理する。 4 学習したことを確認し、1であげた用語の中から、技術と戦術に関係するものをグループで出しあう。	②			(学習活動4) 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。
第3時 運動やスポーツの安全なおこない方	1 教科書の「課題をつかむ」に取り組む。 2 本文と資料から、運動やスポーツを行う前に気をつけるべきことについて整理する。 3 本文と資料から、運動やスポーツを行っている最中や運動後に気をつけるべきことについてまとめる。 4 これまで学んだ知識を活用して、運動やスポーツを安全に行なうために自分のためのチェックリストを作成し、クラス全体で意見交換を行う。	③		①	(学習活動2～3) 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。 (単元を通じて) 学習する内容に関心を持ち、課題の解決に向けた学習に積極的に取り組もうとしている状況を観察で捉える。

【単元名】保健③ 健康な生活と病気の予防②（配当 8 時間）

【学習指導要領との関連】保健分野(1)ア(ウ)(エ), イ

【教科書のページ】 p.78～99

1 単元の目標

- (1) 生活習慣病などの予防, 喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康について, 理解することができるようにする。
- (2) 生活習慣病などの予防, 喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康に関わる事象や情報から課題を発見し, 疾病等のリスクを軽減したり, 生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え, 適切な方法を選択し, それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 生活習慣病などの予防, 喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康に関心を持ち, 課題の解決に向けた学習に自主的に粘り強く取り組むことができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①生活習慣病は, 日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であること, また, 運動不足, 食事の量や質の偏り, 休養や睡眠の不足, 喫煙, 過度の飲酒などの不適切な生活行動が病気のリスクを高めることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②不適切な生活行動を若い年代から続けることによって, やせや肥満などが引き起こされたり, また, 心臓や脳などの血管で動脈硬化が引き起こされたり, 歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりする危険な変化が進行すること, また, 生活習慣病を予防するには, 適度な運動を定期的に行うこと, 毎日の食事における量や頻度, 栄養素のバランスを整えること, 喫煙や過度の飲酒をしないこと, 口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③がんは, 異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり, その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること, また, がんの予防には, 生活習慣病の予防と同様に, 適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④生活習慣病やがんは, 健康診断やがん検診な</p>	<p>①生活習慣病などの予防, 喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康における事柄や情報などについて, 保健に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人生活と関連付けたりして, 自他の課題を発見している。</p> <p>②生活習慣病及びがんの予防について, 習得した知識を自他の生活と比較したり, 活用したりして, 健康の保持増進をする方法を考えたり, 選択したりしている。</p> <p>③喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康について, 習得した知識を自他の生活と比較したり, 活用したりして, 健康の保持増進をする方法を考えたり, 選択したりしている。</p> <p>④生活習慣病などの予防, 喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康について, 課題の解決方法とそれを選択した理由な</p>	<p>①生活習慣病などの予防, 喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康に関心を持ち, 課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>※全 8 時間の中で, 該当時間のねらい等に対応させ, 適切な時間に評価機会を設定する。</p>

<p>どで早期に異常を発見でき、早期の治療が回復を早めることなどについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑤たばこの煙の中にはニコチン、タール及び一酸化炭素などの有害物質が含まれていること、それらの作用により、毛細血管の収縮、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れること、また、常習的な喫煙により、がんや心臓病など様々な疾病を起こしやすくなることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑥酒の主成分のエチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力、自制力、運動機能を低下させたり、事故などを起こしたりすること、急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあること、また、常習的な飲酒により、様々な疾病を起こしやすくなることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑦薬物乱用によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、薬物乱用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きること、また、薬物乱用は、暴力、非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑧喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、断りにくい人間関係、宣伝・広告や入手し易さなどの社会環境によって助長されること、それらに適切に対処する必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>どを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p> <p>※全8時間の中で、該当時間のねらい等に対応させ、適切な時間に評価機会を設定する。</p>	
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------	--

3 指導と評価の計画（8 時間）

知識・技能＝知，思考・判断・表現＝思，主体的に学習に取り組む態度＝態

時間	主な学習活動	知	思	態	評価方法
第1時 生活習慣病	1 現在の日本人の死亡原因の上位だと思う病気を3つ選んでみる。 2 本文と資料・コラムから，様々な生活習慣病があることに気づき，主な生活習慣病の特徴について理解する。 3 本文と資料から，不適切な生活習慣が病気のリスクを高めることを確認し，整理する。 4 学習したことを確認し，ノートなどにまとめる。	①			（学習活動4） 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。
第2時 生活習慣病の予防	1 成人病から生活習慣病への病気の名称が変わった理由を考え，発表してみる。 2 本文と資料から，不健康な生活習慣によって生活習慣病を招く危険な変化が進行することに気づく。 3 生活習慣病を予防する基本について，自分の生活と関連付けたりして確認する。 4 Aさんの生活習慣について課題を発見し，改善すべき点などのアドバイスを考え，ノートなどにまとめ，発表する。	②	①		（学習活動3） 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。 （学習活動4） 生活習慣病などの予防について，自他の課題を発見している状況をノートと観察で捉える。
第3時 がんとその予防	1 Aさんのつぶやきを読んで，がんについての誤解していることがないか考えてみる。 2 本文と資料から，がんという病気の特徴について調べ，整理する。 3 がんのリスクを減らす生活習慣について，自分の生活と関連付けたりして考える。 4 家の人のがんを防ぐ5つの生活習慣を実践できているか振り返り，できていない場合，どのように改善すればよいかノートなどにまとめる。	③	②		（学習活動2） 理解したことを言ったり書いたりしている内容を観察などで捉える。 （学習活動3） 習得した知識を活用し，自他の生活と比較したり，活用したりして，健康の保持増進する方法を考えている状況をノートと観察で捉える。

第4時 生活習慣病・がんの早期発見とその回復	<p>1 がんに関する文章を読んで、正しいものに○、間違っているものに×をつける。</p> <p>2 生活習慣病やがんの早期発見には、健康診断やがん検診が有効であることに気づき、主な検査内容を確認する。</p> <p>3 コラム「がん体験者のことば」を読んで、がんとともに生きる時代を迎えていることに気づき、そのためには周囲のサポートと理解が重要であることを確認する。</p> <p>4 家族の健康診断の受診状況を調べ、検査の内容をまとめたり、健康診断の重要性を伝えるメッセージを作成し、ノートなどにまとめる。</p>	④		①	<p>(学習活動2) 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。</p> <p>(学習活動3) ① 生活習慣病などの予防に関心を持ち、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組みようとしている状況を観察で捉える。</p>
第5時 喫煙と健康	<p>1 喫煙の害について、小学校での学習を振り返ってみる。</p> <p>2 本文と資料から、たばこの煙には様々な有害物質が含まれることに気づき、主な健康被害について理解する。</p> <p>3 本文と資料から、能動喫煙と受動喫煙の害を整理し、その悪影響は若者に強くあらわれることを確認する。</p> <p>4 喫煙による害を防ぐために、どのような対策が取られているか、たばこを吸う人とまわりの人にわけて、ノートなどにまとめる。</p>	⑤			<p>(学習活動3) 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。</p>
第6時 飲酒と健康	<p>1 酒に酔うという状態の説明として、正しいと思う選択肢を選んでみる。</p> <p>2 本文と資料から、アルコールの心身への影響について理解する。</p> <p>3 アルコールの依存性や健康被害についてノートにまとめる。</p> <p>4 20歳未満の人がノンアルコール飲料をお店で購入できない理由について、グループで話し合ってみる。</p>	⑥		③	<p>(学習活動2) 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。</p> <p>(学習活動3) 習得した知識を活用し、自他の生活と比較したり、活用したりして、健康の保持増進をする方法を考えたり、選択したりしている状況をノートと観察で捉える。</p>

第7時 薬物乱用と健康	<p>1 覚醒剤の使用が違法であることの理由について、正しいと思う選択肢を選んでみる。</p> <p>2 本文と資料から、乱用される主な薬物を理解し、薬物乱用の心身への害を確認する。</p> <p>3 乱用薬物には強い依存性があり、幻覚や妄想などの精神症状が現れることに気づき、社会にも悪影響があることを理解する。</p> <p>4 事例「身近に迫る薬物の危険」を読んで、SNSを通じた薬物の誘惑に惑わされないために、どんなことに注意すべきか、グループで話し合ってみる。</p>	⑦	④	<p>(学習活動3)</p> <p>理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。</p> <p>(学習活動4)</p> <p>課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている様子をノートや観察などで捉える。</p>
第8時 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけと対処	<p>1 たばこや薬物に手を出してしまう人がいる理由を考え、意見を出しあってみる。</p> <p>2 喫煙・飲酒・薬物乱用には心理的要因や社会的要因があることに気づき、自分の生活経験と関連付けて理解する。</p> <p>3 それぞれの要因に適切に対処する必要があることを確認し、具体的な対処のしかたを理解する。「体育の窓」を読んで、ドーピングの健康への影響に気づく。</p> <p>4 「学習のまとめ」を読んで、対処のしかたとその対処のしかたを選んだ理由を考え、グループで話し合ってみる。</p>	⑧	①	<p>(学習活動2)</p> <p>理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。</p> <p>(学習活動3)</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用と健康に関心を持ち、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている状況を観察で捉える。</p>

【単元名】保健④ けがの防止と応急手当（配当 8 時間）

【学習指導要領との関連】保健分野(3)ア、イ

【教科書のページ】p.100～125

1 単元の目標

- (1) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因とその防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようになるとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因とその防止、応急手当の意義と実際に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因とその防止、応急手当の意義と実際に関心を持ち、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組むことができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①けがは、人的要因と環境要因、およびそれらの相互の関りによって発生すること、また、人的要因としては、人間の心身の状態や行動の仕方について、環境要因としては、生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	①けがの防止と応急手当における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。	①けがの防止と応急手当に関心を持ち、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。
②交通事故は、人的要因と環境要因、車両要因、およびそれらの相互の関りによって発生すること、また、中学生では自転車事故が多いこと、自転車事故では加害責任をとる場合があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	②交通事故や自然災害などによるけがの防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、けがを引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。	※全 8 時間の中で、該当時間のねらい等に対応させ、適切な時間に評価機会を設定する。
③交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、車両、道路、気象条件などの周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	③けがに応じた適切な応急手当について、習得した知識や技能をけがの状態に合わせて活用して、けがの悪化を防止する方法を見いだしている。	
④地震などの自然災害や二次災害によってけがの危険が生じること、また、その防止には日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと、緊急地震速報を含む災害情報を正確に把握すること、地震などが発生した時や発生した後、周囲の状況を的確に判断し、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要がある	④けがの防止と応急手当について、自他の危険の予測や回避の方法とそれを選択した理由などを、他者と	

<p>あることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑤傷害が発生した際に、その場に居合わせた人が行う応急手当には、けがや病気の悪化を防ぐなどの意義があること、また、応急手当の基本には、状況の把握、周囲の人への連絡と協力の依頼、傷害の状態に応じた手当があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑥心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としては、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）使用といった心肺蘇生法があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑦胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）使用などの心肺蘇生法方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、それらの方法ができる。</p> <p>⑧直接圧迫止血法、包帯法、固定法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、それらの方法ができる。</p>	<p>話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p> <p>※全8時間の中で、該当時間のねらい等に対応させ、適切な時間に評価機会を設定する。</p>	
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------	--

3 指導と評価の計画（8 時間）

知識・技能＝知，思考・判断・表現＝思，主体的に学習に取り組む態度＝態

時間	主な学習活動	知	思	態	評価方法
第1時 けがの原因と防止	1 中学校入学後のけがの経験を振り返って、その原因についてグループで意見交換をしてみる。 2 本文と資料から、中学生の事故の特徴に気づき、事故の原因には人的要因と環境要因があることを理解する。 3 けがの多くは人的・環境要因に関わる危険を予測し、対策を取ることで防ぐことができることを確認する。 4 2つの場面に潜む危険を予測し、危険回避の対策をグループで話し合ってみる。	①			（学習活動3） 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。
第2時 交通事故の実態と原因	1 交通事故につながるヒヤリハットの体験を思い出してみる。 2 中学生の交通事故では自転車事故が多いこと、加害事故では賠償責任を負う場合もあることに気づく。 3 交通事故は人的要因と環境要因、車両要因に関わりあって起こることを整理する。 4 事例を読んで、事故の原因、心理状態、その後の影響などの課題をノートなどにまとめ、グループで話し合ってみる。	②		①	（学習活動2） 理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。 （学習活動4） 交通事故などによるけがの防止について、自他の課題を発見している状況をノートと観察で捉える。
第3時 交通事故によるけがの防止	1 自転車利用時のルールとして、正しいと思うものに○を、間違っていると思うものに×をつけてみる。 2 本文と資料から、交通規則の遵守と危険予測・危険回避が事故防止につながることを理解する。 3 事故を減らす交通環境の整備について、自分の生活地域と関連付けたりして理解する。 4 「学習のまとめ」のイラストを見て、そこに潜む危険を予測し、危険を回避するための行動を考えてみる。	③		②	（学習活動3） 理解したことを言ったり書いたりしている内容を観察などで捉える。 （学習活動4） 習得した知識を活用し、自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、けがを引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している状況をノートと観察で捉える。

第4時 自然災害によるけがの防止	<p>1 「課題をつかむ」のイラストを見て、地震発生の際に予想される危険を考えてみる。</p> <p>2 地震災害などの自然災害とその結果起こる二次災害は、大きな被害をもたらすことを確認する。</p> <p>3 迅速かつ適切な非難が自他の命を守ることに気づき、そのためには日ごろから自然災害に備え、正確な災害所法を入手することが重要であることを理解する。</p> <p>4 自然災害への対策のポイントをチェックし、日ごろの備えを確認する。</p>	④			<p>(学習活動3)</p> <p>理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。</p>
第5時 応急手当の意義と基本	<p>1 友だちが学校で急に倒れてしまったらどうするか、意見を出しあってみる。</p> <p>2 本文と資料から、応急手当の意義を理解する。また、いざというときに備えて応急手当の知識と技術を身につけておくことが重要であることに気づく。</p> <p>3 応急手当には、状況の把握、周囲の人への連絡と協力の依頼、状態に応じた手当などの一般的な手順があることを理解する。</p> <p>4 資料④を参考にして、グループで救急車を呼ぶ練習を行い、ポイントや気づいたことを話し合ってみる。</p>	⑤			<p>(学習活動3)</p> <p>理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。</p>
第6時 心肺蘇生法の流れ	<p>1 「課題をつかむ」の救急隊員のイラストを見て、何をしているのか選択肢から選んでみる。</p> <p>2 心肺蘇生法には胸骨圧迫や AED などがあることを確認し、AED の有効性に気づく。</p> <p>3 心肺蘇生法の基本的な流れを理解する。また、コラム「ASUKA モデル」を読んで、思ったことをグループで話し合ってみる。</p> <p>4 グループで役割を決めて、傷病者の発見から呼吸をみるまでの行動の仕方を練習してみる。</p>	⑥		③	<p>(学習活動3)</p> <p>理解したことを言ったり書いたりしている内容をノートなどで捉える。</p> <p>(学習活動4)</p> <p>けがに応じた適切な応急手当について、習得した知識や技能をけがの状態に合わせて活用して、けがの悪化を防止する方法を見いだしている状況をノートと観察で捉える。</p>

<p>第7時 実習 心肺蘇生法</p>	<p>1 胸骨圧迫の手順や技能ポイントを確認しながら実習に取り組む。</p> <p>2 コラムを読んで、胸骨圧迫の留意点を確認する。</p> <p>3 AED の操作の手順や技能ポイントを確認しながら実習に取り組む。</p> <p>4 気道確保と人工呼吸の手順や技能ポイントを確認しながら実習に取り組む。</p> <p>5 実習を通して気づいたこと、難しいと思った点などをグループで話し合ってみる。</p>	<p>⑦</p>		<p>(学習活動 1～4)</p> <p>心肺蘇生法の方法について、技能ポイントを踏まえた正しい手順について理解し、実習を行っている様子をワークシートと観察で捉える。</p> <p>① (学習活動 5)</p> <p>関心を持ち、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている状況を観察で捉える。</p>
<p>第8時 実習 止血法、 包帯法、 固定法</p>	<p>1 止血法の手順や技能ポイントを確認しながら実習に取り組む。</p> <p>2 包帯での保護と固定の手順や技能ポイントを確認しながら実習に取り組む。</p> <p>3 三角巾での保護と固定の手順や技能ポイントを確認しながら実習に取り組む。</p> <p>4 固定具での固定の手順や技能ポイントを確認しながら実習に取り組む。</p> <p>5 実習を通して気づいたこと、難しいと思った点などをグループで話し合ってみる。</p>	<p>⑧</p>	<p>④</p>	<p>(学習活動 1～4)</p> <p>止血法、包帯法、固定法の方法について、技能ポイントを踏まえた正しい手順について理解し、実習を行っている様子をワークシートと観察で捉える。</p> <p>(学習活動 5)</p> <p>けがの防止と応急手当について、自他の危険の予測や回避の方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている様子をノートや観察などで捉える。</p>